

## JTSF 総会 2018

日時：2018年9月15日（土） 15:30～17:30

場所：テーブルサッカーカフェシャインズ

住所：東京都千代田区飯田橋 4-2-6 アヴァンセ飯田橋 3 F

参加：JTSF 協会員

議題：

1. J T S F が I T S F よりサスペンデッドされた経緯、対応、その結果。(大伴・小林)
2. itsf からの質問とその回答。itsf からの要求事項。(大伴・小林)
3. 暫定的組織改編のお知らせ。(小林)
4. 今期の活動内容 (小林・永川)
5. 会計報告 (小林・大伴・永川)
6. 今後の方針と考え方。(小林・古澤)
7. 新組織への信任、もしくは新たな J T S F 組織構築に向けての投票について。(小林・大伴)
8. その他

1. J T S F が I T S F よりサスペンデッドされた経緯、対応、その結果。(大伴・小林)

2018年5月にITSF協会評価委員会の委員長のDavid MorganよりJTSFのITSF内における資格を一時停止したという知らせが入った。停止理由は、加盟料、大会認定料の不払いとITSFへの連絡不備であった。そして資格復帰のために以下の計画を提出するよう指示があった。

- 開発：どうやってあなたはフーズボールをあなたの国で育てていくのか？
- スポーツとしての評価：政府、すなわち、オリンピック委員会または同様のスポーツ団体から正式な評価を得るために、どのような普及活動を行っていくのか？
- トーナメント：ITSFトーナメント、ナショナルトーナメント（国レベル）、リージョナルトーナメント（地方レベル）、ローカルイベント（地域レベル）はどうなっているのか？
- 関与：例。フーズボールを学校、会社、コミュニティ団体などへの紹介。
- トレーニング：どのようにして、人々にプレー上のテクニックを教え、このゲームのルールを周知するのか？
- 組織：どうやってあなたがたはあなた方自身の組織（J T S F）、委員会、クラブ、運営をまとめていくのか？
- 人：誰があなたがたの組織のチームメンバーで、適正な人が含まれていて、だれもが活動に関わっているか？

これに対して以下の返事を送った。

開発：私たちはこの単純でエキサイティングなゲームをわが国で育てていくことに熱心で、献身的です。

スポーツとしての評価：私たちは日本の文科省にテーブルサッカーを学校の教室で取り上げてくれるよう頼んでみました。しかしながら、彼らは「テーブルサッカー」を「スポーツ」とは見なませんでした。よって、それは残念ながら出来ませんでした。

またJADA（日本アンチ・ドーピング機構）が主催する会議に参加しました。

トーナメント：私たちはITSFまたはJTSFのトーナメントを定期的に東京だけでなく、地方の都市でも行っています。また、現在私たちはレディース、シニアメンバーのためのトーナメントを計画しようとしています。

私たちは私たちのトーナメントを行えるところを継続的に探しています。

トルネードとボンジニに加えてレオンハート、ガーランド、ファイアボールが日本に導入されたので、マルチテーブルの大会を行っています。

関与：国民体育大会の障がい者の部門の関係者にテーブルサッカーを紹介しました。国民体育大会は日本で最大のスポーツイベントで日本体育協会が主催しています。

同じく小学校でのテーブルサッカーの特別クラスを開催（年一回）しました。私たちはテーブルサッカーのこれらのクラスとワークショップを行い、ナショナルチームメンバーの数名がこの活動に参加しました。

また、美術館など公共の場所にテーブルサッカーテーブルを設置しようと試みました。

さらに車いすプレーヤーに関する学会報告を行いました。「ヨーロッパの車いすを使ったフーザーへの Q&A の結果」は「パラスポーツサイエンス」という雑誌に掲載されました。

学会発表論文の「テーブルサッカーは日本の車いすを利用する人に受け入れられるだろうか？」は日本リハビリテーション医学会総会で発表されました。

次に、日本スポーツ協会、日本レクリエーション協会にコンタクトをとりました。日本レクリエーション協会は公益社団法人ですが、そこのワークショップ、交流会を持とうと試みましたが実現出来ませんでした。

トレーニング：現在、ITSF のルールブックの日本語への翻訳を行っています（完成済）。

また、機会あるごとにビギナーに対するレッスンをしています。

組織：私たちの組織、JTSF では、テーブルサッカーに関して 3 本の柱を基本的に推進しています。これらは「スポーツ」「遊び」そして「福祉」です。個々のメンバーが各々の柱に責任を負っています。私たちはこれから総会を開催し、私たちの活動と、収支報告をしていく予定です。

人：メンバーは；永川 博（会長）小林 充 多々木匡行 古澤 駿 黒長大輔 大伴秀郎（顧問）です。

2018年に至るまでの年会費と全てのITSF認定トーナメント費用の支払いが（現在）完了していることを確かめてください。既にあなたに別途連絡したように、年会費とトーナメント費用は送りました。どうか、確認してください。以上です。

この連絡の結果、ITSF より会員資格サスペンションの解除がなされた（6月1日 Will Hawkes からの連絡）。

この点について、会長の永川博より会員に心配を掛けたことに対するお詫び申しあげた。

各項目に関して寄せられた主な質問、補足説明、意見は次のとおり。

P14：JOC への働きかけは今後も続けて欲しい（植野）

P23：今までは自分の担当領域の仕事のみの関りであったが今後はすべての情報を共有し、協議の上物事を進めていくこととした。古澤は会長候補の小林が群馬に住んでいるので、その東京での連絡係、補佐としての機能を担う。多々木は広島に移動したことから従来の福祉部門に加えて西日本での普及活動に努めてもらうこととした（小林）。

P24：麻布公民館ではボンジニの技術指導も行っている。この10月にもイベントを行う予定。

P25：関西での大会開催は久しぶりで、京都では初開催です。

P26：多々木が広島で車椅子の団体と接触している（小林）。

P26：初心者への練習会も群馬で行っている。

P28：会計が黒字化しつつあり、その資金を使い2019年にはジャパンオープンを行う計画している。

P32：過去送金に手間取った理由のひとつに、ITSFのホームページで送金の状況が確認できたが、現在は出来なくなっていることがある。また2018年以前の会計は、NPOの資格を失ったので永川の個人ベースでやらざるを得なかった（永川）。国際的な組織に繋がる組織であるので、今後会計はきっちりとしたものにして欲しい。また過去の会計の報告をしてほしい（植野）。

P34：これまでとは趣を変え、今後は会員とともに進みたい。会員からのボトムアップでスタッフの選定、活動を行って行きたい（小林）。

P36：信任投票は直近の3年間の会員による投票としていたが、それでは大会参加者が少ない安城方面からはたった一人となってしまう（鈴木）に端を発し、どこまでを含めて信任投票のメールを送るかが議論となった。結論としては、休眠会員の復活を期して、フーズボールへの気付きを促進するためにも、メールリストが残っている限り会員全員に送ることとなった。

その他の主な意見として、やはり日本代表を目指す人が多くいるということがフーズボールを活性化し業界を大きくする。「JTSFとして日本の大会はやりません」と言われた時は突き放されたように聞こえショックだった。大会参加を、日本代表を目指して努力しているので、この気持ちをないがしろにしないで欲しい（小島）。

プレーヤーや設置店舗ともっとコミュニケーションを取ってほしい。大会に参加する計画を立てやすくするために、ジャパンツアーというか大会の年間計画が立てられるのであれば、その一覧を前もって作って欲しい。そうすれば予定が立てやすい。特に地方からの参加者には。あと近接した地域での連続しての開催は避けてバランスの取れた大会開催をしてほしい（鈴木）。

これまで協会スタッフとプレーヤーの溝が存在した。プレーヤー主体の協会づくりを目指してほしい。スポンサーの獲得に努力してほしい（植野）。

普段触ってもいないテーブルでの大会はやる意味があるのか？それならやらないほうがいい（吉田（裕））。

日本としてワールドカップの戦略をどうするのかを決めなければならない。ホームテーブルで頑張るのか、アウェイ台でもある程度できるようにするのか（川中）？

日本の公式台を今後検討していかなくてはならない。また大会のレギュレーションもきちんと整えていく必要がある（山本、大伴、永川、植野、鈴木）。

今後の活動を行う上で協会スタッフの増員が必要だろう（鈴木、植野、大伴、小林）。

大会をやるなら盛り上げる努力や工夫をしてほしい（鈴木）。

テーブルサッカー設置店舗の店長を集めた意見交換会を行ったらどうか（古澤）。

協会は店舗のことを考慮してほしい。プレーヤーを一番増やすのに役に立つのは店舗なのだから（小島）。

店舗の責任者が協会スタッフに加わるべきではないか（植野）？

実施される信任投票の選挙管理責任者は自分が引き受ける（植野）。

信任投票は50%以上で信任、対立候補が出て選挙となった場合には得票数が一番多い候補者が当選とする。

以上